



手話サークル研究班



～ 「手話」は聴覚障害者にとって大切な言葉です ～

～ 「手話サークル研究班」の思い ～

メディアや地域で開催されている手話講習会の影響で手話に興味を持つ人たちが増え、「手話」に対する理解は確実に広がってきました。

でも、「手話」への理解が広がることと、「聴覚障害者」への理解が広がることは、イコールではありません。

手話に関わる時間、年齢等々、さまざまな条件の人たちが集うサークルでは、当然手話技術レベルはまちまちだと思いますが、そこにこだわる前に「手話」を健聴者の自己満足な趣味に終わらせることなく、学んだ手話を通して「聴覚障害者と共に歩む」ということが大切だと思います。

「手話サークル」の役割は、学んだ手話を通し、ろう者と交流しながら「手話」と共に「聴覚障害」に対する理解を深め、聴覚障害者と地域をつないでいくことだと考えます。

～ 「手話サークル研究班」のプロフィール ～

2004年4月、9名のメンバーで発足。

神通研集会・分科会「手話サークル」の運営を担当。

その他、神通研・関東通研・全通研の行事、集会に参加。

2008年3月現在、川崎3、横浜4、県域11 計18名で活動中!!

～ '07 神通研集会報告 ～

川崎市で昨年行った聴協も参加しての防災訓練の様子を記録したDVDを見ながら、一般社会が理解できていないこと、今後取り組んでいかななくてはならないことを確認しました。

<今後取り組んでいかななくてはならないこと>

- ・聴こえないとはどのようなことなのかを一般社会に伝えていくためには、日頃から聴こえない障害を持った人たちが実際に社会参加していくことが何より大切。
- ・社会参加をしていく中で、わかりやすい表示の仕方、視覚的情報の必要性、伝わりやすい文章の書き方等、少しずつより良い仕組みが作られていく。
- ・災害時には、聴こえない人自身もいろいろな形で支援側に回ることも必要。

～ 定例会 ～

2/23(土) 定例会を開催しました。

ろう者、サークル会員とも様々な考え方の人たちが集うサークルでのコミュニケーションの取り方について意見交換し、各サークルの事例はとても参考になりました。

また、「災害ボランティアセンター」立ち上げ訓練に参加したメンバーから、健聴者にも文字での情報が大切なこと、聴こえない人が参加することで手話での情報伝達方法があるという意識を一般社会に広げられること、実践することで見えてくる課題があること等の報告がありました。

【次回定例会】3/30(日) 13:10～15:00
県民活動サポートセンター 704

～サークル研究班メンバーのささやき～

我が家のアイドルを紹介します。

今年で推定年齢9歳の娘 ムー は小型犬で犬種はキャバリア。

事情あって前の飼い主さんが手放し、縁あって我が家にきたわんこです。

こぼれ落ちそうな大きなおめめとつややかな長毛にたれた耳、疲れて帰ってきててもこの顔を見ると一遍に癒されてしまいます。

いつも、いつもお留守番ばかりなのに、文句ひとつ言わないわが娘は今日も我が家に笑顔と活力を与えてくれています。

ペンネーム おそとさん